

●特別資料貸出等

郷土・資料調査室が所蔵する貴重な資料は、出版や映像における地域のPR素材として、または学術研究のために、複製物の特別貸出や特別撮影をおこなっています。ご希望の方は、台東区立図書館ホームページで申請の詳細をご確認ください。許可にあたりましては、利用目的や企画内容を総合的に判断させていただきます。

平成27年度の郷土・資料調査室利用実績 (平成28年1月末現在)

- 入室者数：48,592名
- パソコンコーナー利用者数：9,414名 (他電子機器持込席 378名)
- レファレンス件数：カウンター 261件
 - 電話 87件
 - 文書 0件
- 特別貸出：39件 211点 (写真素材：179点、刊行物 32点)
- 特別撮影：4件 20点
- 種別：映像・番組制作 16件、教育・学術研究 16件、出版 4件、その他 6件
- 主な資料提供先：NHK、朝日新聞社ほか
- 主な提供資料：高相嘉男氏写真コレクション、絵はがき、浮世絵など
- 浅草文庫利用者数：1,319名



東都名所 吉原雪の朝▶



◀入谷朝顔市

●平成28年度の企画展

郷土・資料調査室では、平成28年度に下記の企画展を予定しています。詳細は広報たいとう、ホームページ、ポスター、チラシ等でご案内します。なお企画展にあわせて講演会や展示解説も行いますので、ふるってご参加ください。

企画展「日記が語る台東区 蘭学者がつづる江戸～柴田収蔵日記」
 6月17日(金)～9月14日(水)
 講演会 7月上旬開催 (予定)
 展示解説開催 (予定)

常設展「郷土・資料調査室ってこんなところ (仮)」
 9月16日(金)～12月14日(水)
 展示解説開催 (予定)

企画展「台東区の門 ～所蔵資料から～ (仮)」
 12月16日(木)～平成29年3月15日(水)
 講演会 平成29年2月開催 (予定)
 展示解説開催 (予定)

企画展「久保田万太郎展 (仮)」
 平成29年3月17日(金)～6月中旬

ただいま準備中

所蔵資料で見ると 谷中五重塔

3月18日(金)～6月12日(日)

谷中分室開館1周年に合わせて、谷中天王寺の五重塔にスポットを当てた展示を行います。

谷中五重塔は、江戸時代に創建され、ながらく谷中のシンボルとして人々に親しまれてきましたが、昭和32年に放火により焼失してしまいました。

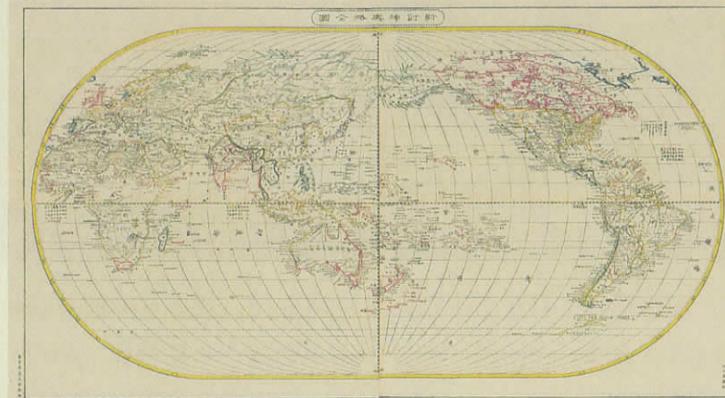
この展示では、谷中五重塔を描いた『江戸名所図会』、浮世絵 (ともに館蔵)、そして幸田露伴の小説『五重塔』の叙述などから、人々に親しまれてきた様子や、幕末から現代までの歴史を振り返ります。



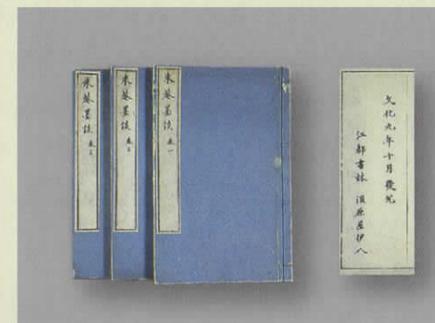
▲幸田露伴『小説尾花集』表紙

書庫を繙く

郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー



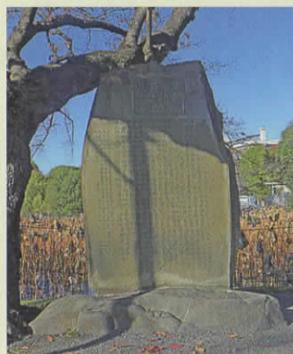
▲図1 「新訂坤輿略全図」(館蔵)



▲図2 文化9年(1812)刊『米菴墨談』(館蔵) 須原屋伊八が版元の書物。



▲図3 蘭学者 柴田収蔵 安政4年(1857)刊『安巳新撰文苑人名録』部分 (東京藝術大学図書館蔵)



▲図4 石碑「半億先生衣幘之蔵」

今回の「書庫を繙く」は、6月17日から開催する展覧会「日記が語る台東区～蘭学者がつづる江戸～柴田収蔵日記」(9月14日まで)から展示資料の一部を紹介します。

日記を書いた柴田収蔵は、新潟県佐渡宿根木の出身ですが、家業を継ぐのを嫌い、江戸に学問修行のため出てきます。最初の江戸日記は現存していませんが、2度目(天保14年～弘化2年)と3度目(嘉永3年～安政4年)の江戸日記は断片的に残っています。

収蔵が江戸で本格的に学問で身を立てると決心してからその門戸を叩いたのは、蘭方医・伊東玄朴でした。玄朴の塾・象先堂の住居は、下谷和泉橋通(現、台東一丁目)であったため、収蔵はこの付近を生活圏として過ごします。

学者の卵である収蔵は、江戸という大都会に出てきた喜びがそうさせるのでしょうか、毎日のように書籍や本屋の名称を日記に書き留めます。

特に頻りに名が登場するのが、池之端仲町通りの本屋「岡村屋庄助」です。収蔵はこの岡村屋に赴き、書籍を担保に借金までしています。ほかに池之端の本屋、「須原屋伊八」の名も登場します。

収蔵は最初、佐渡奉行・石井夏海の紹介で越後高田藩医・中根半億のもとに身を寄せました。半億が嘉永3年(1850)に死没すると、収蔵は師のため記念碑建立に尽力します。その石碑が不忍池弁天堂近くに立つ「半億先生衣幘之蔵」(「衣幘」は衣と頭巾の意)(図4)です。

企画展では、「新訂坤輿略全図」(図1)という精緻な世界図を制作した柴田収蔵という蘭学者の熱心な研究への取り組みや記念碑を建てる費用を捻出するために奔走の様子など、生き生きとした幕末の台東区の記事をピックアップして紹介します。

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621
 東京都台東区西浅草3-25-16
 TEL.03-5246-5911
<http://www.taitocity.net/tai-lib>
【開館時間】
 月～土曜日 午前9時～午後8時
 日曜・祝日 午前9時～午後5時

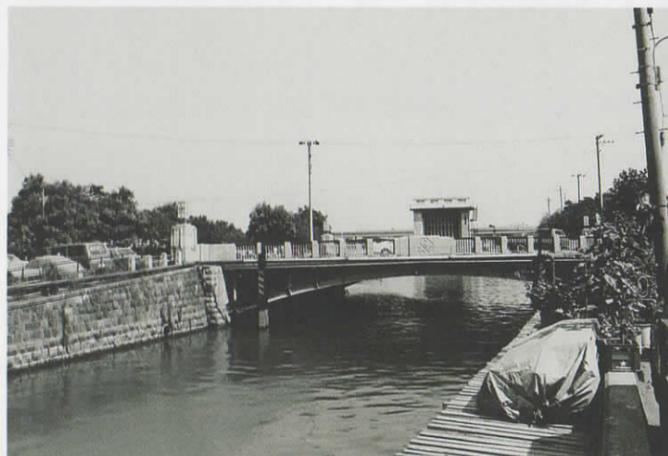
- 【アクセス】**
- つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩5分
 - 地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
 - 北めぐりん・南めぐりん 「生涯学習センター北」徒歩2分
 - 都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩1分



郷土・資料調査室紹介

【定点撮影編】

▼今戸橋 (昭和49年)



▼今戸橋 (平成26年)



郷土・資料調査室では、図書以外にも多くの写真資料を変換保存・公開しています。今回は、そのうちの「定点撮影」をご紹介します。

台東区の図書館では、変わりゆく台東区の風景を記録するために、昭和49年からほぼ毎年、同じアングルで66か所を撮影してきました。それが「定点撮影」です。

撮影場所には文学にかかわりの深い場所や江戸時代からの名所が多く選ばれていますので、この写真を見ることによって、古い本に出ている光景の現在までに至る変化を実感することができます。

今となっては確認することも困難となった風景を約40年にわたって記録した貴重資料ですが、フィルムや写真による資料のため、ご覧いただくのが困難な状況にありました。



▲書架に並ぶ定点撮影

そこで、郷土・資料調査室では、多数にわたる原資料を改めて整理、保存するとともに、デジタル・データ化を進め、画像の閲覧・特別貸出をできるように整備しています。

現在、郷土・資料調査室内の、書架に目録を用意し、デジタル化した分の定点撮影の閲覧を行っているほか、画像データの特別貸出も行っております。

特別貸出については、許可の条件がございますので、詳細についてはホームページやカウンターにてご確認ください。



▲企画展での展示風景

今後は、定点撮影の画像をデジタル公開の対象とし、インターネット上での公開を予定しているほか、企画展でも適時画像を使用してゆきます。

中央図書館にお寄りの際は、昨今の台東区の変化を貴重な定点撮影の写真でご覧になってみてはいかがでしょうか。

平成27年度の企画展

百貨店の時代——昭和初期の上野松坂屋

3月20日(金)～6月14日(日)

◆専門員によるスライド・トーク

- 日時：4月9日(木)、5月14日(木)、6月11日(木)
- 講師：平野 恵 (台東区立中央図書館専門員)
- 参加者数：33名 (3回合計)



谷中の自然を見る

ほん ぞう かん えん 本草学者・岩崎灌園の世界

6月19日(金)～9月16日(水)

◆講演会

①「すぎ散歩～谷中の植物をたずねて～」

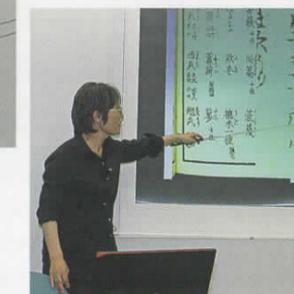
- 日時：7月4日(土)
- 講師：杉崎光明 (樹木医)
- 参加者数：23名

②「岩崎灌園と江戸の自然」

- 日時：7月11日(土)
- 講師：平野 恵
- 参加者数：43名

◆専門員によるスライド・トーク

- 日時：7月9日(木)、8月13日(木)、9月10日(木)
- 講師：平野 恵
- 参加者数：21名 (3回合計)



のりものいろいろ

～新聞記事から見る台東区～

9月18日(金)～12月16日(水)

◆図書館員によるスライド・トーク

- 日時：10月8日(木)、11月12日(木)
- 参加者数：22名 (2回合計)



日記が語る台東区 その2 お殿様の上野浅草散歩道『宴遊日記』

12月18日(金)～平成28年3月16日(水)

◆トーク・イベント 『宴遊日記』の世界

- 日時：平成28年2月28日(日)
- 講師：①『宴遊日記』と江戸文化 —歌舞伎と俳諧— 岩田秀行 (跡見学園女子大学教授)
- ②柳沢信鴻の上野浅草散歩道 小澤 弘 (淑徳大学客員教授)
- ③殿様がたつづる江戸園芸 平野 恵

◆専門員によるスライド・トーク

- 日時：平成28年1月14日(木)、2月11日(祝・木)
- 講師：平野 恵
- 参加者数：31名 (2回合計)

